

学び合い、考えを深め、高め合う子どもの育成
～言語活動(対話)を通して学び合う算数科授業の工夫・改善～

いちき串木野市立照島小学校

1 研究のねらい

子ども一人一人が学習内容を深く理解し、必要な資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続ける力を身に付けさせることを目指し、言語活動としての「対話」を通して学び合う算数科授業の工夫・改善を行うことで、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう研究を進めることにした。

2 研究の概要

1 年次の研究では、学習指導要領における数学的な表現力や算数的活動について整理し、発達の段階に応じた対話のとりえ方や指導過程への対話の位置付け等の研究を深め、実践を行ってきた。

2 年次の研究では、1 年次の研究をより深めるために、子どもに自分の考えをしっかりとめさせて問題解決に取り組ませ、言語活動（対話）の充実を図りながら、自他の考えのよさに気付かせたり、考えを深めさせたりする中で、主体的に学び合う授業の実践に取り組んできた。

3 研究の内容

研究の仮説と研究の視点を以下のように設定し、研究主題解明に取り組んだ。

研 究 の 仮 説	研 究 の 視 点
○ 問題解決の見通しをもたせ、自力解決の段階に向かう言語活動(対話)の充実を図れば、学習に主体的に取り組む子どもを育成することができるのではないか。	・ 学習問題の提示と学習課題（めあて）の明確化 ・ 問題解決学習の手立ての工夫
○ 自分の考えをしっかりとめさせ、練り上げる・まとめる段階における言語活動（対話）の充実を図れば、協働的に学ぶ子どもを育成することができるのではないか。	・ 一単位時間の指導過程における対話の在り方 ・ 学習を振り返る活動の在り方
○ 業間の時間などを活用して、個に応じた計画的・継続的な指導の充実を図れば、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けた子どもを育成することができるのではないか。	・ 子どもの実態を踏まえた学習環境の充実

4 研究の実際

算数科の学習過程における対話の目的を明確化し、研究の仮説の検証に取り組んだ。

(1) 問題解決的な算数科学習の指導過程と対話の位置付け

過 程	児 童 の 活 動	授業における対話の様子
つかむ 見通す	【解決方法の見通しをもつ】ための対話 ○ 学習問題を受け止める ○ 学習課題（<u>めあて</u>）を立てる ○ 問題解決の見通しをもつ	

調べる	○ 自力解決を図る 【解決方法の見通しをもつ】ための対話 ○ 協同解決（ペア・グループ・全体）で互いの考えを交流する	
練り上げる・まとめる	【よりよい解決方法を探る】ための対話 ○ 協同解決（全体）で練り上げる ○ 明らかになった解決方法のよさを確かめ、<u>まとめる</u>（学習課題と対応させたまとめ）	
ふり返る	○ 学習をふり返る 「わ・が・と・も」の視点で	わ：分かったこと が：がんばったこと と：友達のよかったこと も：もっと学びたいこと

(2) 子どもの実態を踏まえた学習環境の充実

ア 子どもの学び方や学習への意欲に関する意識調査の実施

イ 個の実態に対応する業間活動の充実（「算数タイム」、 「言葉の時間」の取組）

ウ 既習事項のふり返りや学習内容を活用した学習環境づくり

「算数タイム」の取組	「言葉の時間」の取組	授業に役立てる教材の作成
		

5 研究のまとめ

(1) 成果

ア 問題解決的な学習における指導過程の捉え方や問題提示についての研修の深まり

イ 指導法改善加配教諭と学級担任との情報共有と指導の充実

ウ 子どもの実態把握を基にしたきめ細やかな個に応じた指導の充実

エ 自力解決における操作活動で高まった学習意欲をグループでの話し合いに生かす指導の充実

オ 協同解決の場面での対話活動による子どもの思考の高まり

カ 教室内外の学習環境の整備の充実

キ 業間の活動で自分を表現することに自信をもって取り組む姿

(2) 課題

ア 根拠をもって自分の考えを発表すること、順序を意識した説明の仕方などの研究の継続

イ 子どもの思考を深める切り返し等の的確な発問の研究の深化

ウ 個別ファイルの作成，継続的・累積的な指導の充実

エ 学校の学習活動と家庭学習とを連動させた取組の研究

6 今後の取組

本研究で明らかになった成果と課題を今後の指導方法改善に生かし、「主体的・対話的で深い学び」を追究していくために，更なる研究に取り組んでいきたい。